国会議員の仕事とは「思いを実現する仕事」

＿鈴木寛の仕事観

何もかも初めての選挙、そして当選から、あっという間に早４ヶ月。国会議員として夢中で働いた鈴木寛に、「国会議員の仕事とは？」という問いを通して、改めて自分自身の仕事、そして担うべき役割についての考えを聞いてみました。

（インタビュー　天野恵）

■変わらないスタンス

基本的には、自分の仕事に注ぐ思いや見据えている所は、仕事がいくら変わっても、変わりません。「ソーシャルプロデュース」という仕事をし続ける、世の中おかしいと思うことがあったら、まず気づいた人間が、自分で行動して変えていけばいい、それが自分の仕事であり、役割である、と考えています。

ただ、今まではあくまで裏方、表の顔と裏の顔を使い分けたり、本来の仕事に付随して不可欠な、瑣末な作業に追われたりしていたけれど、今は自分の思いが全て注げる仕事だけに没頭していられるんです。それはとても楽しいし、やりがいを感じています。

参議院は、突然の解散がありません。だから余裕を持って中、長期的な視点から物事を進められるのも、ありがたいんです。単発でのプロジェクトは、今までたくさんやってきましたが、最早そういった第一線での新しい仕掛けの部分よりも、実際長期的に動く仕組み作りに移行する時期に来ています。新しい流れが、一時の盛り上がりで終わらず、持続することが大切だと考えています。

■議員になって変わった事

議員になって変わったことと言えば会える人の幅が広がったこと、裏方ではなく、自分が表にでてやっていく役割に変わったことだと、言えるでしょう。

つい先日も、中国で朱鎔基首相との会談に、日本からの使節団の一員として参加してきました。表舞台に大手を振って立つというのは、実に久しぶりで、学生時代の演劇に出演していた頃以来です。

選挙で当選できたことは、裏方としてではなく実際多くの方々の支持を得ることができたという点で、大きな自信になったと同時に、その責任の大きさに気持ちが引き締まる思いがしました。私の考えを支持してくれた方々一人一人の、お金で換算することのできない思いや生活を担っているのだと実感し、生きてきた中で一番プレッシャーを感じました。

今までは、自分の責任の範囲での活動だったけれど、これからはそうはいきませんね。

■これからの仕事

これから、日本は残念なことにもう少し状況は悪くなっていくでしょう。そしていつか、ゼロから我々が新しいものを創っていかねばならない時が突然にやってくるだろう、と思います。その時に、どのように対応していくのか、それまでに何ができるのかについて考え、準備をしています。

今は、歴史の生き証人としてこの変動の時期を内部からしっかりと見て、何が良かったのか悪かったのか、その時どう国が動いていくのかについて漏らさず学んでいるつもりです。

鈴木寛サッカーをする!!
～日韓国会議員親善蹴球大会～

二〇〇二年日韓共同開催ワールドカップサッカーまで約半年となりました。日韓両国には、同大会の成功を期し、それぞれにワールドカップサッカー議員連盟というのがあります。

私は、ＪＡＷＯＣの情報通信委員としてワールドカップの誘致から関わってきたことから、議員になると同時に、この議員連盟の一員となりました。日韓国会議員対抗親善試合は、両国の国会議員の親睦を深め、大会の成功に寄与しようということで、これまでに三回行われています。今回は十一月十八日に、九州で唯一のワールドカップ会場となる、「大分ビックアイ」で行われました。両国から、約六十名国会議員が参加しました。

これまでの戦績は韓国の二勝一敗で、特に今回は、これまで全日本のエースストライカーとして活躍された釜本邦茂さんが任期満了に伴いチームから抜けられたため、日本チームにとっては、戦前からなかなか厳しい状況にありました。そういうことからでしょうか、日本チームの中心として活躍してこられた、樽床伸二衆議院議員や田中甲衆議院議員、小川勝也参議院議員からは、私すずかんへの熱烈な勧誘があり、今回参加させていただくこととなりました。

私がもらった背番号は、７番。なんとあの、中田英寿と同じ背番号です。あの青い全日本のユニフォームの「ＮＡＫＡＴＡ」の部分が「ＳＵＺＵＫＡＮ」となったわけです。これも、全日本チームの私に対する期待の大きさのあらわれでしょう。

↓試合後の集合写真。どこかにコンタクトのスズカンが

さて肝心の試合のほうですが、やはりというか、韓国チームは、相当の強豪揃いでした。

結果は、二対三で惜しくも敗戦。なんと、私の自殺点が決勝点となってしまいました。不慣れなコンタクトレンズのおかげで、ボールが三つに見えていたなどと、言い訳もできず、帰りのバスでは、チームメイトに平謝りでしたが、その後に行われた懇親パーティーで森前総理のご挨拶の中で、

「本日は、二対二の同点でした。しかし、どうしても来年のワールドカップを成功させたいとの強い思いから、韓国側にゴールをプレゼントした人間がいます。まさに、彼こそが本日の最高殊勲選手であります。」

といって私のことを紹介していただいたおかげで、すっかり、パーティのヒーローになってしまいました。

このパーティには、韓国からも大物が多数参加していて、韓国チームの鄭夢準韓国サッカー協会長（ＦＩＦＡ副会長）や金鐘泌元首相といった、来年行われる大統領選挙の有力候補のみなさんにも

「スズカーン、ナンバーセブン！」

と言われながら抱擁され、すっかり韓国国会議員団の皆さんには名前を覚えていただきました。

こうしたことにより、韓国のメンバーとより親睦を深めることが出来たのも、まさに「けがの功名」といったところでしょうか。

来年三月には、韓国済州島において第五戦が行われます。次回には必ず自陣でなく、韓国ゴールのネットを揺らしてこようと思っています。

この試合のために、「体力作り」と称して議員会館の階段を六階まで上る、という荒行をときどき思い出してはやっていたすずかん。その効果は、、、試合中、何度か足をつりそうになってしまったようです。基礎体力の大切さを痛感し、さらなるトレーニングを誓ったすずかん。その成果は、次回までのお楽しみだそうです。